

[成果情報名]高冷地における夏秋パプリカの露地簡易雨除け栽培

[要約] 夏秋パプリカは、トマトの簡易雨除け資材とイボ竹支柱を用いて露地栽培することが可能である。5月下旬に定植することで8月から11月に収穫できる。品種は、赤色系が「UN506R」「アルテガ」を、黄色系は「スベン」「ジアルテ」を用いる。

[担当] 総合農業技術センター・高冷地野菜花き振興センター・野菜作物科・岩間亮太

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

パプリカは市場で人気拡大しており、販売価格も高い有望な品目である。県内においては主に大型施設で栽培されており、露地栽培の技術は未確立である。また、峡北地域はかつて露地の夏秋トマト栽培が盛んであり、簡易雨除け資材を所有する農家が多い。そこで、トマトの簡易雨除け資材を用いた高冷地における夏秋パプリカの露地栽培技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 高冷地における夏秋パプリカの露地栽培で、トマトの簡易雨除け資材を用い、3月上旬に播種し5月下旬に定植することで、8月から11月まで収穫することができる（図1）。
2. 主枝の誘引資材としてイボ竹支柱を用い、主枝2本仕立て、1節1果どりとする（図2）。雨除け資材のサイズに合わせ、畦幅2m（床幅70cm）、株間20cmを目安とし、夏期の地温上昇を抑制するために白黒ダブルマルチを用いる（図2）。
3. 品種は、赤色系の「アルテガ」を用いると可販収量5,850kg/10a、一果重177gを得られ、「UN506R」では可販収量6,630kg/10a、一果重186gを得られる（図3、表2）。黄色系は「スベン」を用いると可販収量5,770kg/10a、一果重205gを、「ジアルテ」では可販収量6,960kg/10a、一果重205gを得られる（図3、表2）。

[成果の活用上の留意点]

1. 試験は北杜市明野町の標高747m（高冷地野菜・花き振興センター）で行った。
2. 定植は遅霜が発生しなくなる5月中旬以降に行う。病害を予防するために、定植後直ちに雨除け被覆を行う。
3. 仕立て法は、令和元年度成果情報「高冷地における夏秋パプリカの有望品種および栽培法」を参考にする。
4. 施肥は基肥として緩効性肥料を用い、3要素成分量（N、P、K）で各30kg/10aを施用する。また、草勢をみながら9月以降に追肥を行う。

[期待される効果]

1. 高冷地における夏秋パプリカの簡易雨除け栽培技術が確立され、新たな果菜類の夏秋栽培品目となる。

[具体的データ]

品目	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏秋パプリカ(露地)		○	—	—	▽			□			

図1 夏秋パプリカの露地簡易雨除け栽培の作型 ※○:播種 ▽:定植 □:収穫



図2 トマト簡易雨除けを用いた夏秋パプリカ栽培

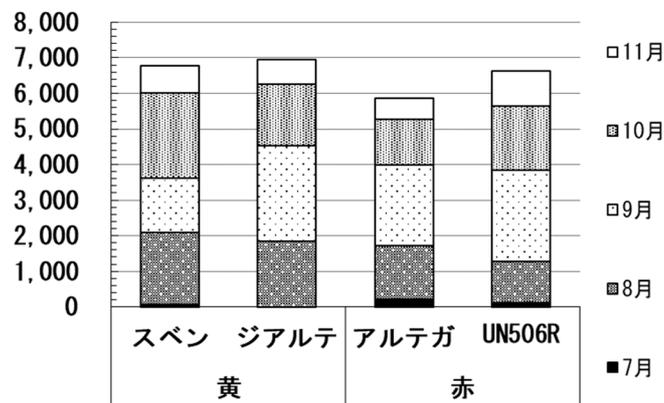


図3 簡易雨除け夏秋パプリカの可販収量(2023年)

表2 赤色系と黄色系品種の平均果重(2023年)

	赤色		黄色	
	アルテガ	UN506R	スペイン	ジアルテ
果重 (g/個)	177	186	205	205

[その他]

研究課題名：高冷地における夏秋パプリカの簡易雨除け栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2022～2025年度

研究担当者：岩間亮太、窪田浩一、佐野理香、大平千覚、赤池一彦、馬場久美子